

第3クールSeason2

# WebサービスAPI勉強会

「JavaScriptライブラリワーク(jQuery等)」

## 0

準備事項(前日までに行っていた  
きたいこと)

Season1参加者に関してはすでに楽天デベロッパーID、楽天アフィリエイトIDを取得済みなのでこのページは無視していただいて構いません。Season2から参加の方はオリエンテーションテキストも御覧ください。

今回の勉強会では楽天ウェブサービスを使います。楽天ウェブサービスとは楽天のAPIを提供するシステムの総称です。開発者は無料で使うことができます。

## ▽楽天ウェブサービス

<http://webservice.rakuten.co.jp/>

楽天ウェブサービスを使うには楽天市場に会員登録が必要です。また、楽天ウェブサービスを初めてお使いの方は楽天ウェブサービスのページで、登録する必要があります。

APIを使用するにあたって、下記二つの項目が必要です。これらはリクエストURLのパラメータとして使います。

- ・デベロッパーID
- ・アフィリエイトID

なお、現在デベロッパーIDの確認には文字入力とメール認証の二つが必要になっており、10分ぐらいかかるので事前に準備しておくことが望ましいです。そして忘れないようにするためにもきちんと書き留めておくことが大切です。

## ワーク

①自分の楽天デベロッパーIDと楽天アフィリエイトIDをテキストエディタなどでコピーでメモって保存しておきましょう。(いつでも参照できるように)。

②時間のある時で良いので規約を必ず読んでおきましょう。

## ▽楽天ウェブサービス規約

<http://webservice.rakuten.co.jp/rule/>

③クレジット表示についても読んでおきましょう

## ▽クレジット表示

<http://webservice.rakuten.co.jp/credit/>

楽天会員サービス [ログアウト](#)

ようこそ、脇村隆さん  
(本人ではない場合は[こちら](#))

アカウント情報

- ・ [デベロッパーIDの確認](#)
- ・ [アフィリエイトIDの確認](#)

ご利用方法

楽天ウェブサービスはどなたでも利用できます！

1. [デベロッパーIDを取得](#)
2. [ドキュメントを参照](#)
3. [アプリケーションを開発](#)

## 1

## Season2のゴールは？

Season1ではJavascriptを使ってAPIからデータを取得し、それをブラウザに表示する『最低限』のことだけを勉強しました。その後今日までの間にカスタマイズしたり、繰り返し練習するなどして、Javascriptの感覚に慣れていただいていることでしょう。

Season2ではちまたで言われる「Ajax」を含めて見せ方を良くしていくことに注力していきます。その中で便利なライブラリと言われる「jQuery」というものを使用します。

これを使用することにより短期間で効果的なサイト作りに一歩近づくことが出来るのです。

こういったAjaxやライブラリの考え方を採用し表現力を広げているサイトは世の中では主流になってきました。カッコよく見せるだけではなくユーザビリティを向上させ、コンバージョン率(購買率)を向上させることにも繋がります。

大手ポータルやフーやAmazonなどのサイトでも活用されているような表現を自分のサイトにも表現していきませんか。

注・Season1のテキストでAjaxは第4クールとしましたが、カリキュラムを組み直し、Season2で組み込むこととしました。

## ワーク

①Season2から初参加の方でも最低限Season1のテキストを一通りさらっと読んでおいて何をやってきたか把握しておいてください。参加された方は一通り復習しておくことで学習効果が高まります。

①事前にテキストの全体の見出しだけでも見て、全体像を把握しておきましょう。出来れば、完璧に理解できなくとも読んでおくことで当日のわからないところが明確に出来ます。  
(今後の勉強会でも共通です)

②今日の勉強会が終わったらやることを決めてここにメモしておく。  
例:復習、自分の好みの色のパーツを作る・・・等

*memo*

## 2

## 商品検索結果表示の復習

Season1で実施した楽天市場商品検索APIを利用し、商品検索結果を再度表示させてみましょう。

まず、XAMPPを起動し、Apacheをスタートさせます(今回のようなJavascriptのみの場合は省略できますが、今後の開発の練習のためにやっておきましょう)。

次にhtdocs以下に今回のサンプルファイルseason2フォルダごとに入れてください。season2フォルダの下にはtemplate、tools、workフォルダが入っています。テンプレートファイルをtemplateフォルダからコピーしてworkフォルダに入れて、ここで自分仕様にカスタマイズして、作業を進めます。

1. 楽天デベロッパーID、アフィリエイトIDの記入

2. リクエストURLの組み立て

すでに組み立ててあるが、パラメータの変更や追加などご自由に

3. コールバック関数についての復習

※日本語キーワードはURLエンコードが必要。URLエンコードツールを使って変化したものをパラメータとして使うこと (toolsに入っています)。

<http://monetize-tools.net/urlencodetool/urlencode.html>

## ワーク

①リクエストURLのパラメータを修正し、自分の好きなキーワードでの商品結果にする。

デフォルトでは「エコポイント」になっています。

※今回の勉強会の性質上、楽天市場で50件以上、ヒットする検索キーワードにしてください。

▽楽天市場

<http://www.rakuten.co.jp/>

②表示されたリンク(画像)をクリックして、適切なページへジャンプしているか確認する。

③余裕がある方はまわりの方、特に初めていらっしゃる方をフォローしてください。

(教えることも勉強です)

確認URL

<http://localhost/season2/work/search.html>

## 3

document.writeで出力する  
テンプレートカスタマイズTips

前回のSeason1で商品検索結果に出力する項目を追加するのに苦労された方も多いと思います。それはたった一行で位置商品分の情報を出力するようにしたためです。

```
//商品画像を一個ずつ取り出しながら、それぞれの情報を表示
document.write(items[i].itemName + "<br/>¥n" +items[i].
itemPrice + "円<br/>¥n" + "<a href=¥\"" + items[i].affiliateUrl
+ "¥">" + "<img src=¥\"" + items[i].mediumImageUrl +
"¥"><¥/a><br/><br/>");
```

これだと可視性がよく有りません。

改めて文法を解説するとdocument.writeの括弧内にあるものをブラウザに出力するという部分です。「+」記号は結合、すなわち、文字列をつなげる役目をしています。またブラウザに出力する内容に「\n」(Mac)とか「¥n」(Windows)というものがありますが、これはHTML文中で改行を意味します。

すなわち、すべての要素を一行で表すのではなく複数行にわたって書くのと下記の通りになります。

```
document.write(items[i].itemName + "<br/>¥n");
document.write(items[i].itemPrice + "円<br/>¥n");
document.write("<a href=¥\"" + items[i].affiliateUrl + "¥">");
document.write("<img src=¥\"" + items[i].mediumImageUrl
+ "\"><¥/a><br/><br/>");
```

## ワーク

- ①左記該当部分をコピペで書き換えて見ましょう。  
(コピペ用テキストを用意しています)

商品情報のパーツ単位になるとレイアウトも装飾もやりやすくなります。まだ見慣れないJavascriptのコードですが、少しずつ見やすくなるように、自分から気をつけて、書き換えてみてカスタマイズを勧めてみましょう。

## 4

## 商品の価格を赤くしてみる

前回のようにJavascriptで出力する文字、HTMLを見やすくすると、装飾なども簡単になります。

例えば、商品の価格を赤くしようと思えば、

```
document.write(items[i].itemPrice + "円<br/>¥n");
```

の前後にdivタグなどで囲ってstyle=・・・などで赤く修飾すれば良いのです。

```
document.write("<div style=¥\"color:#ff0000;¥\">¥n");
document.write(items[i].itemPrice + "円<br/>¥n");
document.write("</div>¥n");
```

この時、document.writeの中で文字列を指定するときに「"」ダブルクォーテーションマークでくくって、指定していますが、HTMLタグを書き出すときにも

```
<div style="color:#ff0000;">
```

とダブルクォーテーションマークで指定する必要が出てきます。Javascriptはダブルクォーテーションマークの開始と終了で処理を判断しているので、出力する文字列にダブルクォーテーションマークが入っていると誤作動してバグになります。そのため、「¥」マークを「"」の前に入れてJavascriptの「"」でないように解釈させます。

## ワーク

- ①商品価格を赤くする
- ②好みがある人は商品価格をその色にする(ややオレンジなど)
- ③興味がある人は太字にしてみる

ほとんどスタイルシートの練習みたいなものですが、スタイルシート辞典などを頼りにカスタマイズしてみてください。

▽スタイルシートリファレンス(目的別)

<http://www.htmq.com/style/index.shtml>

▽スタイルシートを勉強していくのにおすすめ

CSSレイアウト実践講座:(うかさん)

<http://css.uka-p.com/>